

リビングラボを通じて“真”の「地域包括ケアシステム」を構築

横浜市戸塚区

株式会社ツクイ

地域戦略推進室 菊池 友香

1. はじめに

真の「地域包括ケアシステム」とは何でしょう？

わが国では、高齢化率の上昇や生産人口の減少、さらに互助の環境変化で「2025年問題」・「8050問題」など多くの課題を有し、「地域包括ケアシステム」構築が急務となっている事は皆様ご存知だと思います。しかし「連携」という言葉だけが独り歩きし、“真”の連携には追いついていないのが現状ではないでしょうか？

これらを踏まえ、株式会社ツクイでは“真”の「地域包括ケアシステム」構築を目的として2016年より「エリアサービスコーディネーター」という新しい職種を介護業界で初めて配置し、事業所を拠点に医療・介護及び地域の連携における課題抽出、さらに「民間企業」のもつ多種多様な情報・資源、医療・学校法人とのつながりなどの資源を活用した活動を行っています。

- ◆老人会にて「介護予防講座」の開催や地域交流会の開催
- ◆民生委員主体の活動へ専門職種の派遣
- ◆総合授業の一環として小学校での車椅子講習
- ◆NPO法人へ定期的な研修会開催
- ◆地域限定認知症ガイドブックを作成・配信

これらの取り組みを通じて多くの課題が見えました。

そのひとつに「民間企業」が地域とつながる事の難しさです。民間企業といってもその規模も様々ですが、弊社の様な規模の大きな企業ゆえの課題がそこにありました。

- ◎営利企業に対する不信感
- ◎地域の資源についての情報量の少なさ
- ◎地域の人たちと顔の見える関係性の乏しさ

例えば、「地域で交流会を開催したいのですが・・・」と町内会の会長へご相談させて頂くと「なんで株式会社やるの？」とか「何か勧誘されるの？」と、あまり前向きな回答が頂けない事が多くありました。その反面、地域ケアプラザさんや社会福祉法人さんなどは、地域での活動はもちろんの事、民生委員さん・NPO法人さん・ボランティアさんなどとも顔の見える関係性ができており、地域にとっても近い存在である事に気が付きました。どうすれば地域にとって一番良い形ができるのか？そこでつながったのが、「リビングラボ」です。

2. 「とつかりリビングラボ」を通じて地域課題へアプローチ

現在、横浜市内では、15地区以上でエリアの名を冠したリビングラボの活動があります。

「リビングラボ」とは、暮らしを豊かにするためのサービスやモノを生み出したり、より良いものにしていくことを目指した新しい地域・社会活動です。

戸塚区でも「とつかりリビングラボ」が立ち上がり、地域の医療・子育て・介護・障がいの地域課題を多面的・共生的な視点でとらえながら、地域住民や企業・NPO法人・社会福祉法人・自治体・

大学・医療機関・各三師会・行政など様々な主体が、それぞれの得意分野を活かし協働して活動を行っています。

立ち上げ当初は、なかなか前に進まなかったようです。しかし「民間企業」が関わることによって大きく動き出します。民間企業の強みでもある①スピード感②資源提供（人・金）③多種多様なつながり④情報の保有量⑤情報収集力などが多種多様なメンバーの強みと上手く混ざりあい相乗効果を生み出したのではないかと感じております。

今回は「とつかりビングラボ」の活動の一つ、「とつか未来会議」をご紹介します。このフォーラムを通じて新たに生まれた“民間企業”と“地域”とのつながり、そして地域課題解決の一步を合わせてご紹介します。

このフォーラムのサブタイトルは「一人ひとりの意識の変化がとつかの未来を大きく変える」です。毎年テーマを1つ決め「医療」「介護」「子育て」「障がい」それぞれの視点で地域の課題について“自分事として”捉え、情報を持ち帰り、地域で新たなイノベーションにつなげてもらう事を目的としております。

今年度のテーマは「防災」です。10月17日に開催し約100名の方々に参加頂きました。まずは、「医療」「介護」「子育て」「障がい」のカテゴリ別にフューチャーセッションを開催。参加者は、学生から高齢者まで、そして医師や介護施設のスタッフ、町内会長、民生委員と様々なメンバーがグループになって地域課題を出し合います。地域で活躍しているプロの方々が進行役、またはファシリテーターとして皆様の声を集めます。解決できそう、またはすでに取り組んでいるものがあればその場で回答。残った課題を午後のパネルディスカッションへつなげ、参加した皆さんと共有。パネラーは、戸塚区の三師会の先生方や行政、そして学生です。会場とのキャッチボールも行い一緒に考えていきます。

3. 考察

台風15号そして19号で大きな被害があった後という事もあり、参加された方々の意識も高く、フューチャーセッションでは、①平時からの避難所を把握や福祉避難所の存在②必要以上の支援（物資）は3次災害につながる為、必要としている支援を知ることの重要性③ラジオ（FMとつか）を活用した地域情報の収集。など多くの意見が出ました。

今回のフォーラムを通じてわかった事は、◎地域資源について知らない人が多い◎防災に対する意識は高い！◎連携意識も高い！などです。地域課題の見える化や情報共有により「民間企業」が地域に求められている内容も理解することができ大きな一歩になりました。

4. おわりに

これまでの「地域包括ケアシステム」構築では、介護・医療またはその他の関係機関、または同じ業界のみで話し合われる事が多く、異業種の民間企業と地域住民も入り直接意見交換するという機会はほとんどありませんでした。直接意見交換ができたことにより民間企業を身近に感じてもらえた事、何かあった時に気軽に相談できる関係性づくりができました。まさに先進的な取り組みと言えるでしょう。

今後はさらにステップアップし、地域の課題に対し地域住民と共に実証や検証をおこないながら、地域で新たなイノベーションを起こしていきたいと思えます。

これがまさに真の「地域包括ケアシステム」構築なのではないでしょうか？